



株式会社 **ニコン**
広報・IR部

2010年3月期 第1四半期決算説明会

2009年8月5日
株式会社ニコン

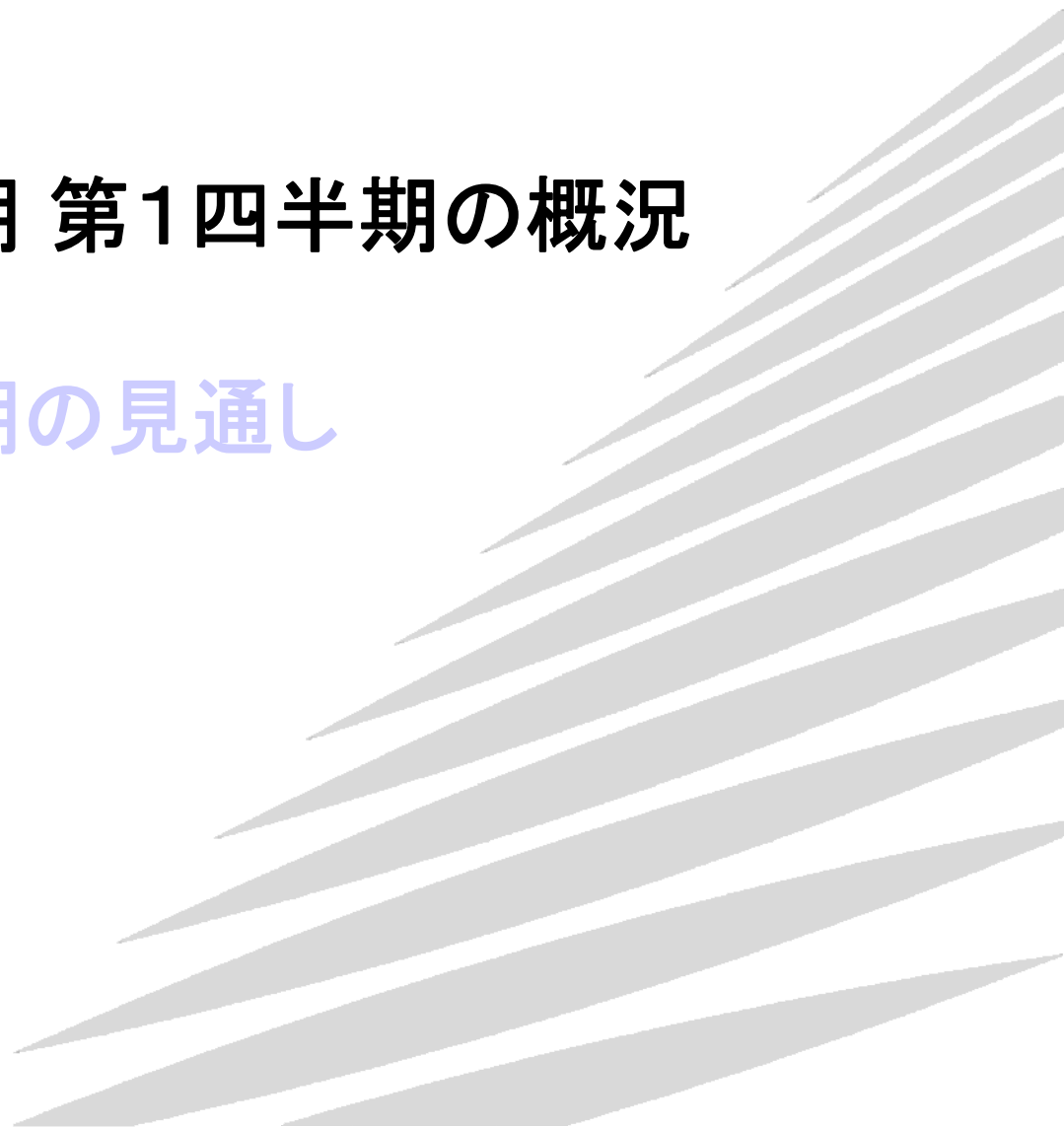
※本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的风险及び不確実性が含まれます。従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。

Agenda

I. 2010年3月期 第1四半期の概況

II. 2010年3月期の見通し

III. 参考データ



2010年3月期 第1四半期 連結売上高・損益



単位: 億円	09年3月期 1Q	10年3月期 1Q	前年実績比
売上高	2,379	1,751	▲628
営業利益 <small>売上高比</small>	287 12.1%	7 0.4%	▲280
経常利益 <small>売上高比</small>	291 12.2%	▲13 -%	▲304
当期純利益 <small>売上高比</small>	180 7.6%	▲40 -%	▲220
為替: ドル (円) ユーロ	105 163	97 133	売上高へ影響額 約▲212億円 営業利益へ影響額 約▲137億円

精機事業は厳しい環境であったが、映像事業の健闘で営業利益を確保
(前年4Qの営業損失66億円から黒字化)

* スライドで使用している数値はすべて億円未満は四捨五入してあります。

	09年3月期 1Q	10年3月期 1Q	前年実績比
売上高	579億円	273億円	▲306
営業利益 <small>売上高比</small>	62億円 <small>10.7%</small>	▲101億円 <small>-%</small>	▲163
半導体露光装置 新品/中古	17/5台	7/-台	▲10/▲5
液晶露光装置	17台	3台	▲14

前年1Q比、台数で半導体新品は6割減、液晶露光装置は8割減。
5割の減収、163億円の減益。 冷え込んだ半導体露光装置市場
のなかでは健闘(4-6月の新品シェアは5割以上)

	09年3月期 1Q	10年3月期 1Q	前年実績比
売上高	1,649億円	1,354億円	▲295
営業利益 <small>売上高比</small>	231億円 <small>14.0%</small>	125億円 <small>9.2%</small>	▲106
デジタル一眼レフ カメラ	86万台	84万台	▲2万台
交換レンズ	126万本	124万本	▲2万本
コンパクトデジタル カメラ	260万台	254万台	▲6万台

一眼レフの中・高級機の販売が想定を上回った。
 前年1Q比、為替差を考慮すれば売上、営業利益ともに健闘。
 前年4Qの生産・在庫調整を終え、営業利益は大きく改善(前年4Qは▲60)

	09年3月期 1Q	10年3月期 1Q	前年実績比
売上高	109億円	82億円	▲27
営業利益 <small>売上高比</small>	▲11億円 <small>-%</small>	▲16億円 <small>-%</small>	▲5

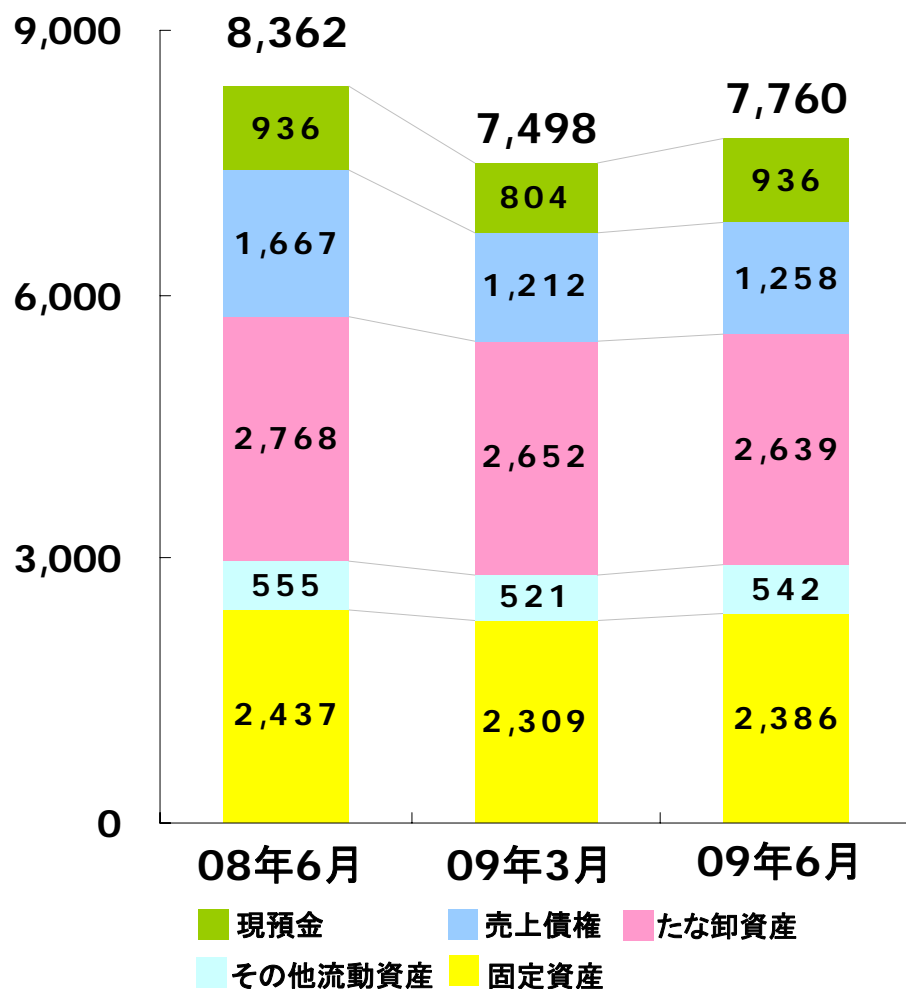
生物顕微鏡は前年1Q比増収であったが、
産業機器は投資抑制の影響を大きく受けた

	09年3月期 1Q	10年3月期 1Q	前年実績比
売上高	42億円	42億円	—
営業利益 <small>売上高比</small>	7億円 16.7%	1億円 2.4%	▲6

前年1Q比、ガラス事業の液晶フォトマスク基板は売上を拡大

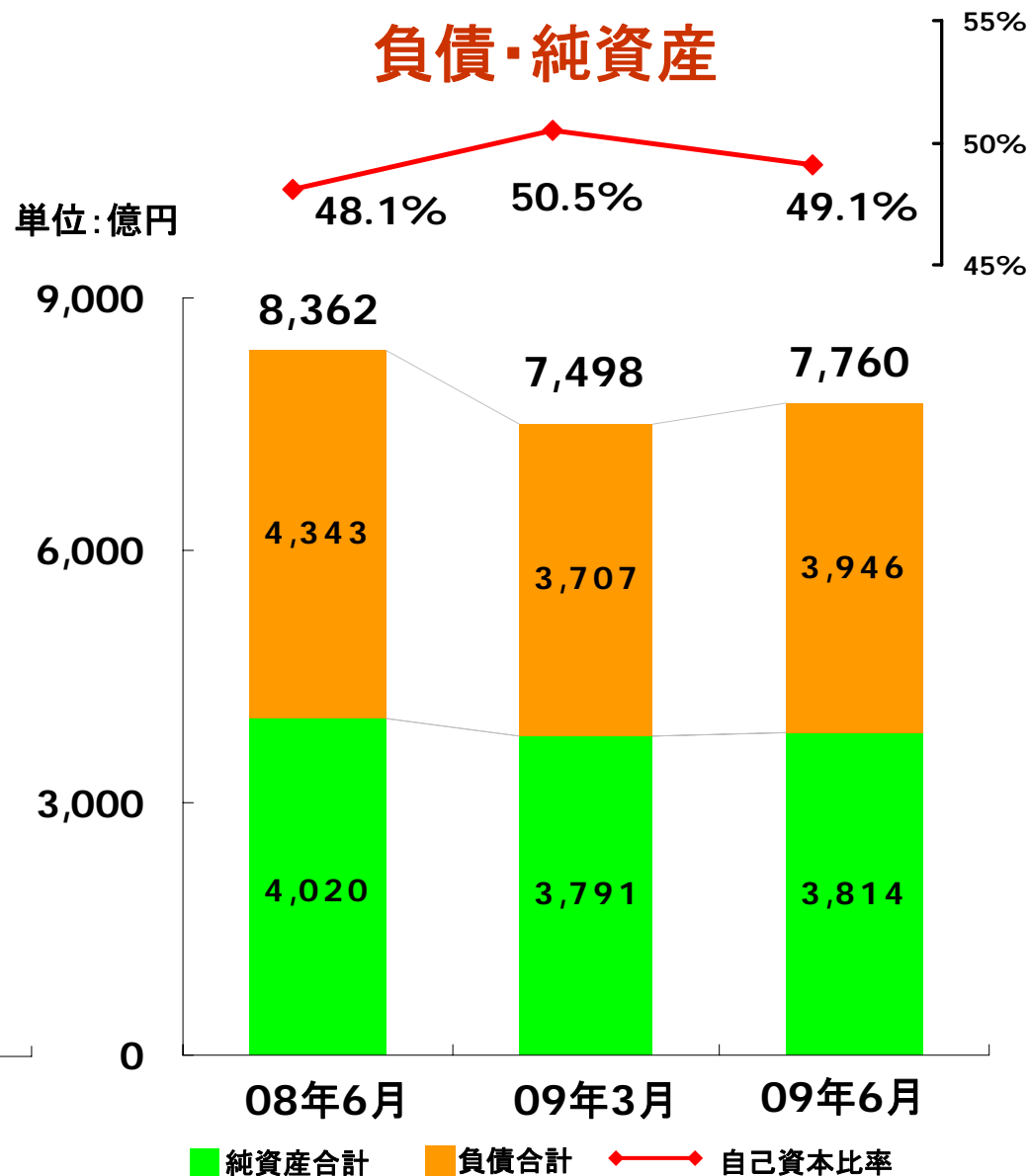
資産

単位: 億円



負債・純資産

単位: 億円



◆前年1Q比では、経済環境・為替を主因に大幅な減収減益だったが、前年4Qの営業損失(66億円)からは黒字化

- ・「精機」「インスト」は、産業界の設備投資抑制により低迷
- ・「映像」は、前年4Qの生産・在庫調整を終了し、前年4Qからは大幅に営業利益を改善(+185億円)

◆精機カンパニーは、生産拠点の再編とサービス体制の改革をスタート

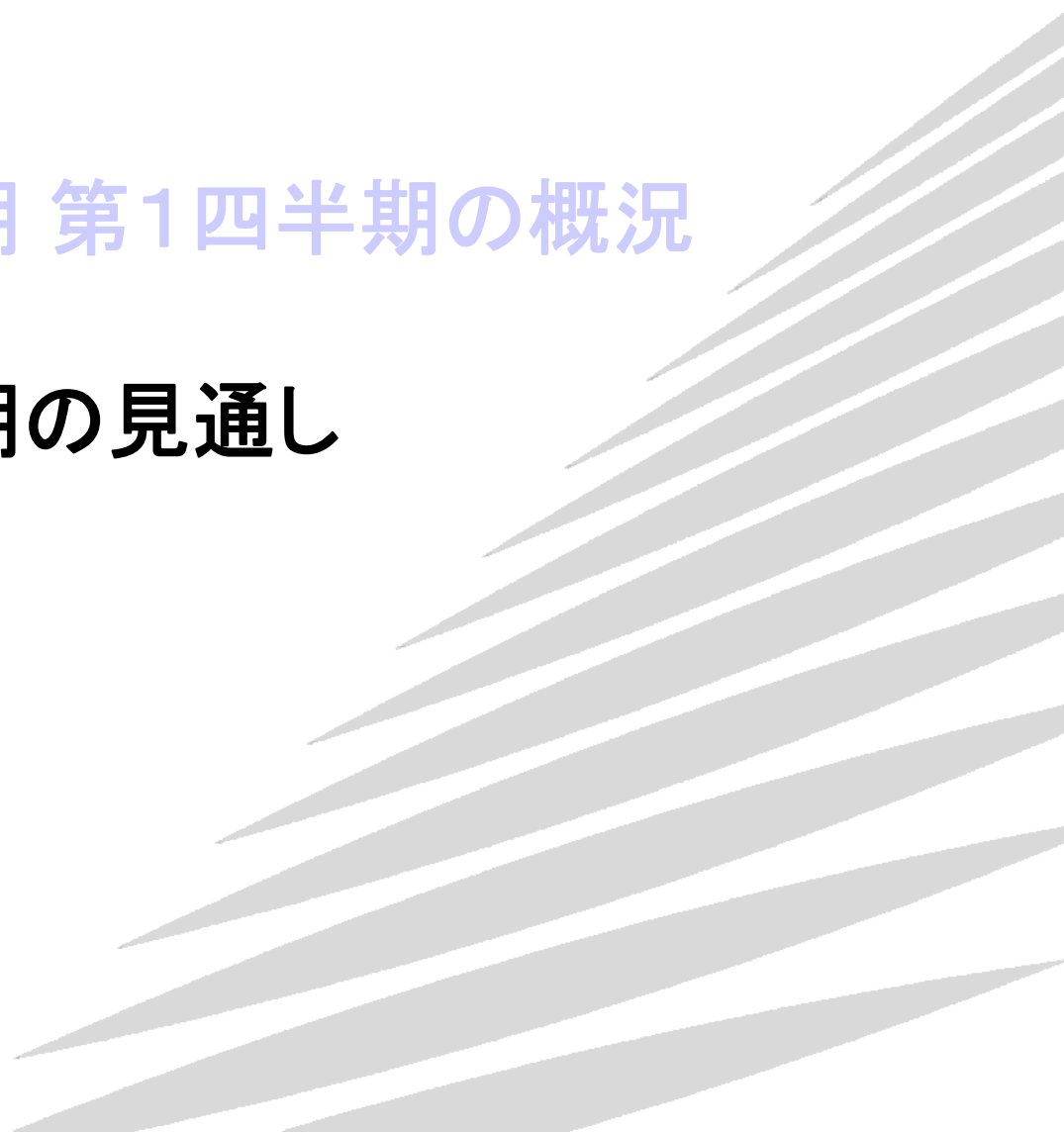
◆インストルメンツカンパニーは、ベルギーの測定機メーカー(Metris社)を買収(現在、TOB継続中)

Agenda

I. 2010年3月期 第1四半期の概況

II. 2010年3月期の見通し

III. 参考データ



2010年3月期見通し 連結売上高・損益



単位: 億円	09年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/13)	上期 下期	10年3月期 見通し	上期 下期	前年実績比	前回予想比
売上高	8,797	$\frac{4,871}{3,926}$	6,800	$\frac{3,200}{3,600}$	7,100	$\frac{3,400}{3,700}$	▲1,697	+300
営業利益 売上高比	482 5.5%	$\frac{541}{\text{▲59}}$	▲120 -%	$\frac{\text{▲140}}{20}$	▲300 -%	$\frac{\text{▲320}}{20}$	▲782	▲180
経常利益 売上高比	477 5.4%	$\frac{531}{\text{▲54}}$	▲160 -%	$\frac{\text{▲160}}{0}$	▲360 -%	$\frac{\text{▲360}}{0}$	▲837	▲200
当期純利益 売上高比	281 3.2%	$\frac{336}{\text{▲55}}$	▲170 -%	$\frac{\text{▲150}}{\text{▲20}}$	▲280 -%	$\frac{\text{▲290}}{10}$	▲561	▲110
為替:ドル (円) ユーロ	101 144	$\frac{106}{95}$ $\frac{163}{125}$	95 125		96 127			

売上高は、1Qの映像事業の好調を受け上方修正。
 今期は構造改革と棚卸の最適化を進め、来期の浮上へつなげる。
 精機事業の棚卸を徹底的に洗い直すこととし、営業利益を下方修正する

* 前回予想とは2009年5月13日発表における予想です。 * スライドで使用している数値はすべて億円未満は四捨五入してあります。 10

2010年3月期見通し 精機カンパニー

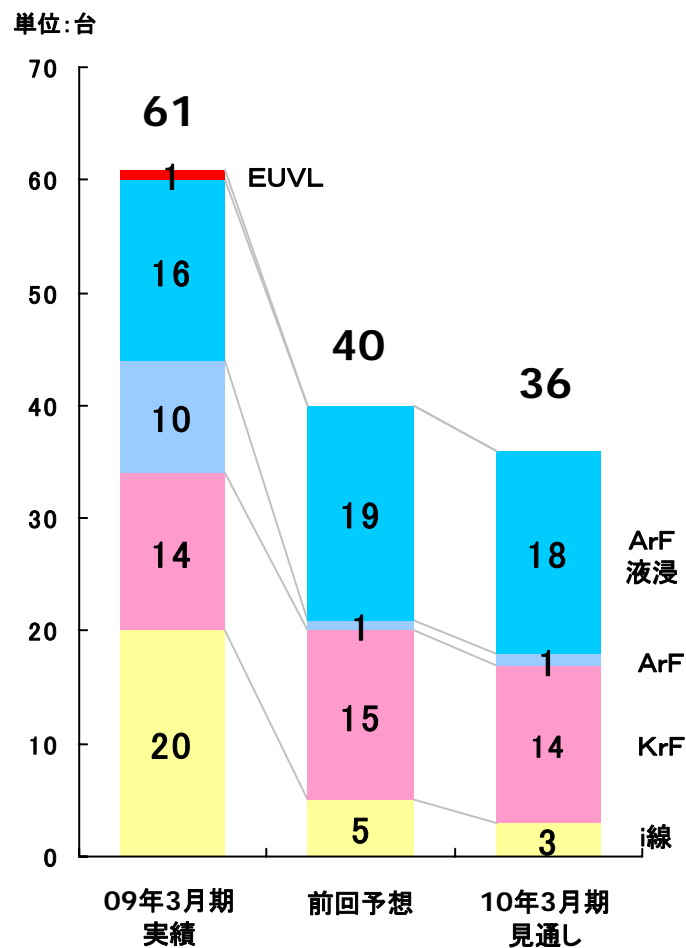


	09年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/13)	上期 下期	10年3月期 見通し	上期 下期
売上高	2,199億円	$\frac{1,172}{1,027}$	1,400億円	$\frac{600}{800}$	1,400億円	$\frac{640}{760}$
営業利益 <small>売上高比</small>	80億円 3.6%	$\frac{122}{\blacktriangle 42}$	▲330億円 -%	$\frac{\blacktriangle 180}{\blacktriangle 150}$	▲590億円 -%	$\frac{\blacktriangle 455}{\blacktriangle 135}$
半導体露光装置 新品/中古	61/17台	$\frac{32/10}{29/7}$	40/13台	$\frac{17/5}{23/8}$	36/13台	$\frac{18/3}{18/10}$
液晶露光装置	65台	$\frac{37}{28}$	36台	$\frac{14}{22}$	41台	$\frac{15}{26}$
半導体露光装置 市場規模CY08/09	296台		90台程度		90台程度	
液晶露光装置 市場規模CY08/09 (カラーフィルター用を除く)	110台程度		70台程度		70台程度	

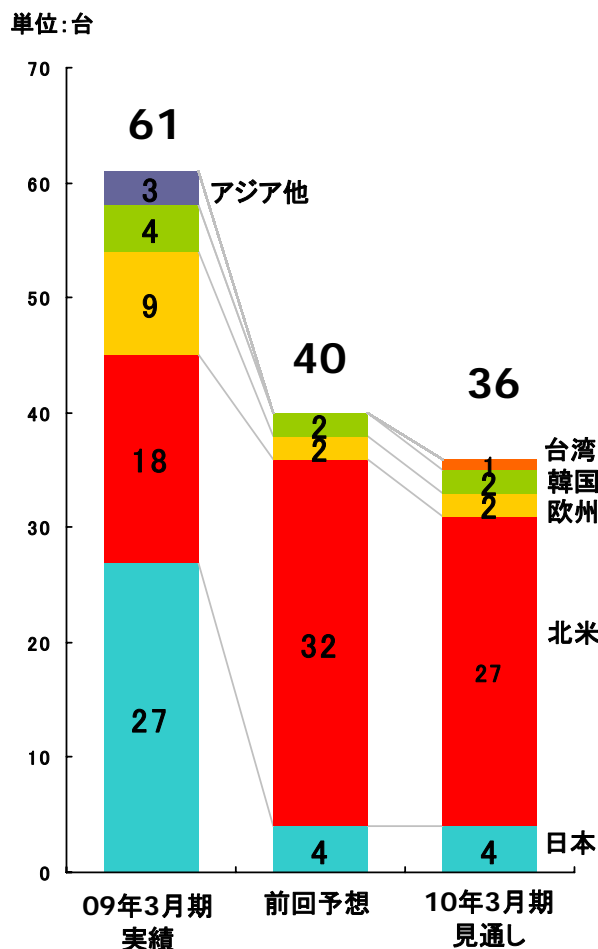
市場の回復を保守的にとらえ、今回、思い切った棚卸の見直しを2Qに実施する。上期の予想営業利益を275億円下方修正。液晶用は小型パネル向けなどで、通期で5台の上方修正



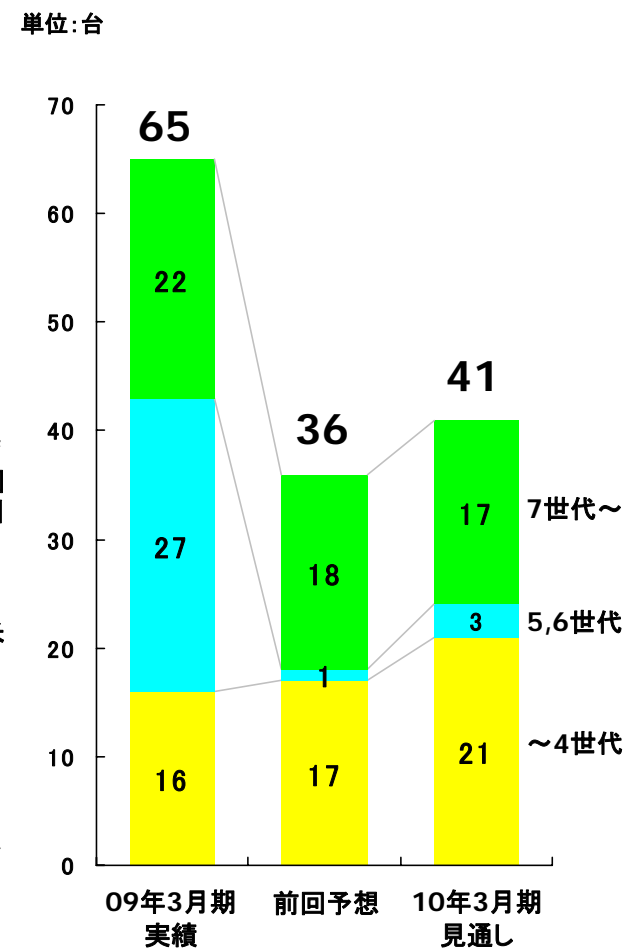
半導体露光装置 光源別販売台数



半導体露光装置 地域別販売台数



液晶露光装置 世代別販売台数



2010年3月期見通し 映像カンパニー

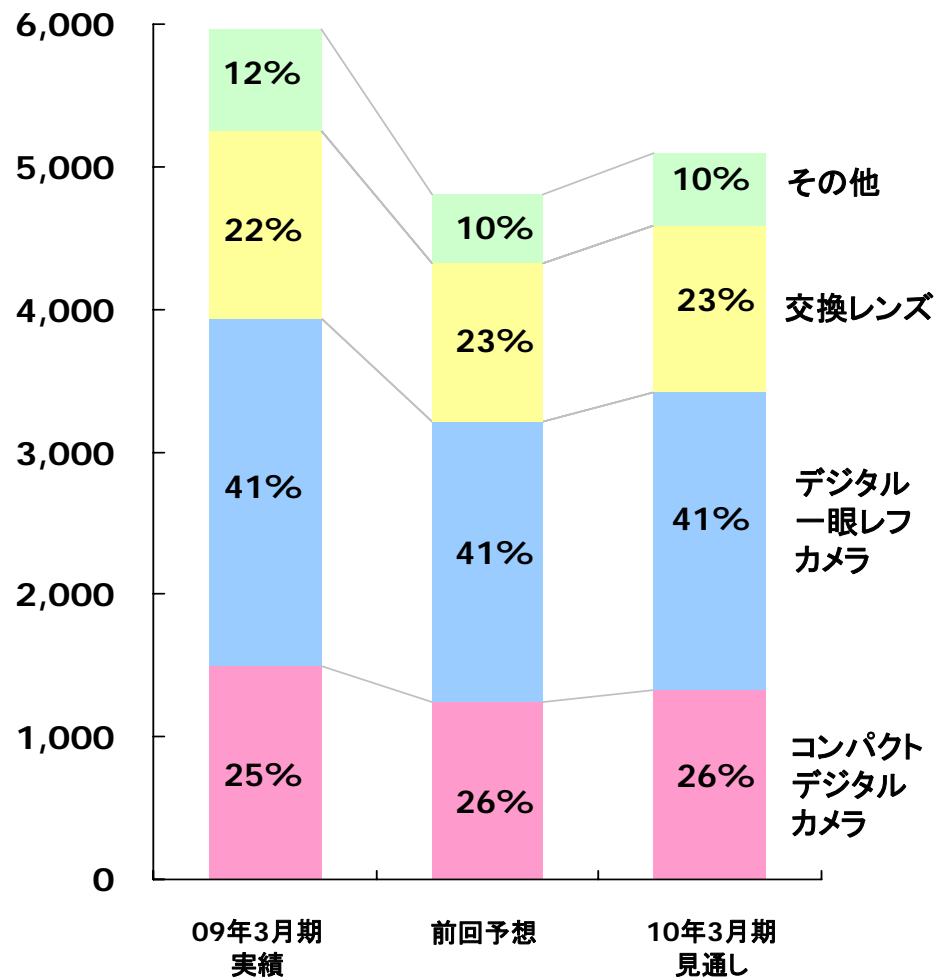


	09年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/13)	上期 下期	10年3月期 見通し	上期 下期
売上高	5,965億円	<u>3,372</u> 2,593	4,800億円	<u>2,300</u> 2,500	5,100億円	<u>2,500</u> 2,600
営業利益 <small>売上高比</small>	400億円 6.7%	<u>420</u> ▲20	250億円 5.2%	<u>80</u> 170	350億円 6.9%	<u>180</u> 170
デジタル一眼レフ カメラ	342万台		340万台	<u>170</u> 170	345万台	<u>165</u> 180
交換レンズ	487万本		480万本	<u>240</u> 240	490万本	<u>240</u> 250
コンパクトデジタル カメラ	1,033万台		1,000万台	<u>470</u> 530	1,050万台	<u>500</u> 550
デジタル一眼レフ カメラ市場規模	913万台		920万台		920万台	
交換レンズ市場規模	1,480万本		1,500万本		1,500万本	
コンパクトデジタル カメラ市場規模	10,369万台		10,300万台		10,300万台	

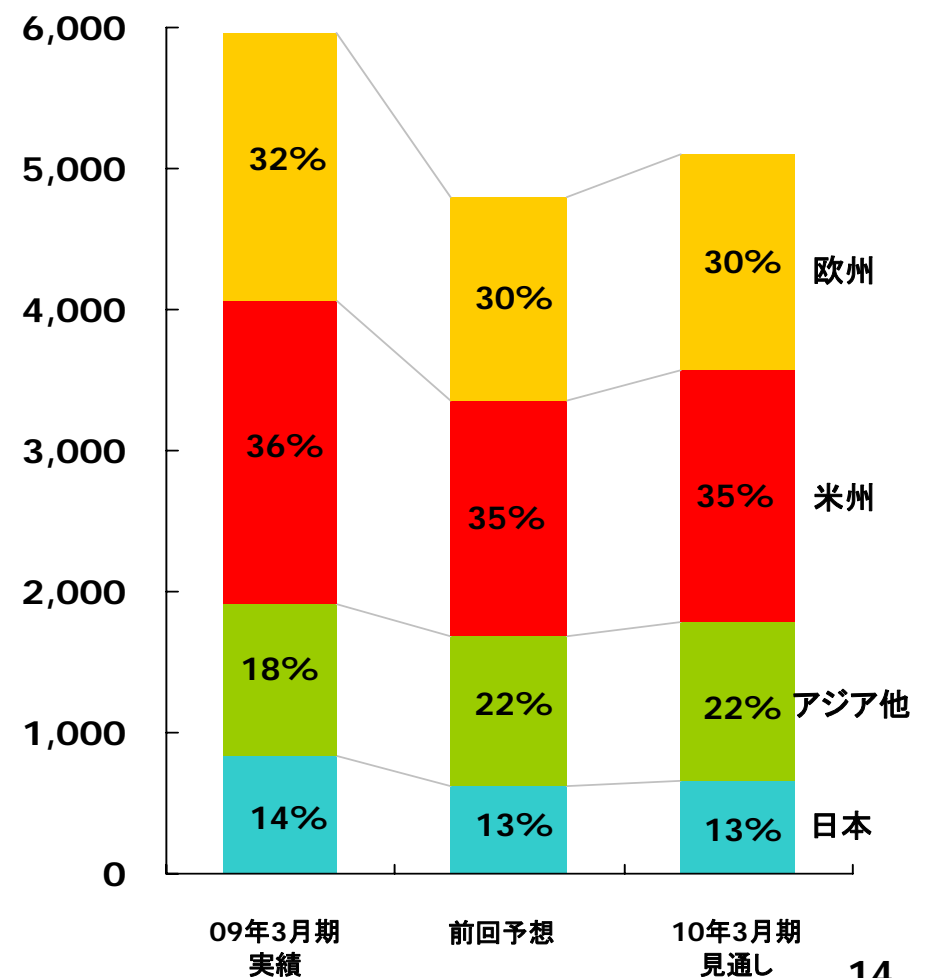
1Qの好調を受け、売上高・営業利益を上方修正。
 年末商戦の市況が不透明なため、下期の予想営業利益は据え置く

販売金額の製品別・地域別構成比

単位: 億円



単位: 億円

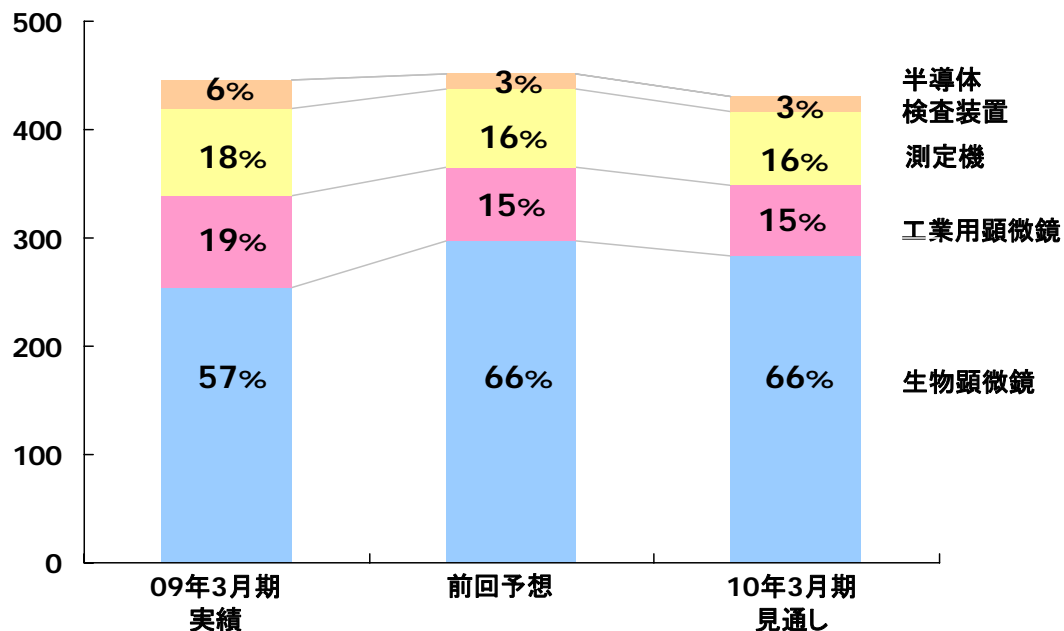


2010年3月期見通し インストルメンツカンパニー



	09年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/13)	上期 下期	10年3月期 見通し	上期 下期
売上高	446 億円	<u>232</u> 214	450 億円	<u>190</u> 260	430 億円	<u>180</u> 250
営業利益 <small>売上高比</small>	▲27 億円 <small>-%</small>	<u>▲13</u> ▲14	▲30 億円 <small>-%</small>	<u>▲30</u> 0	▲40 億円 <small>-%</small>	<u>▲35</u> ▲5

単位: 億円



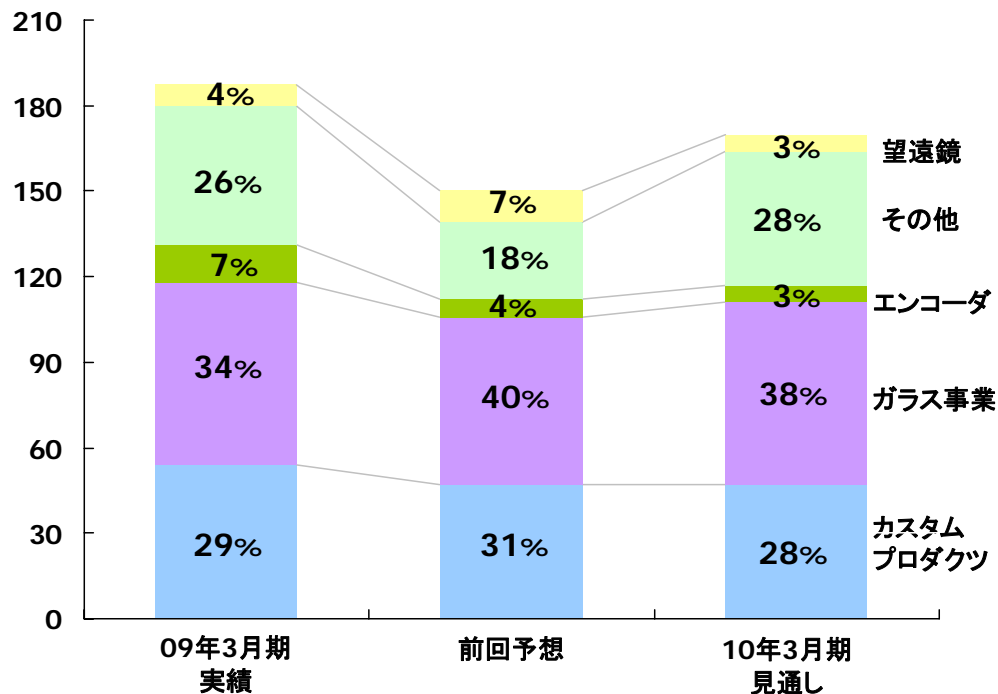
生物顕微鏡はライブセル対応製品が堅調だが、産業機器は引き続き設備投資抑制の影響を受ける

2010年3月期見通し その他の事業

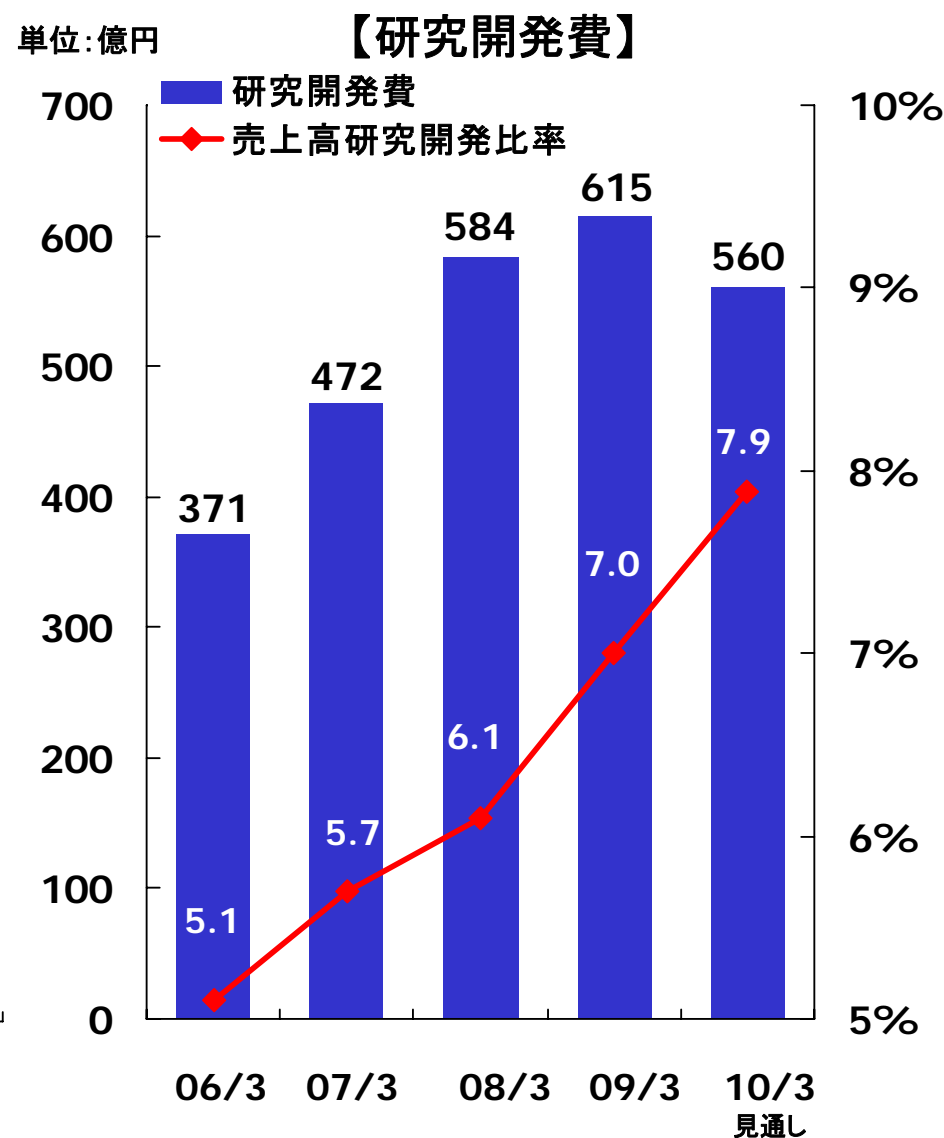
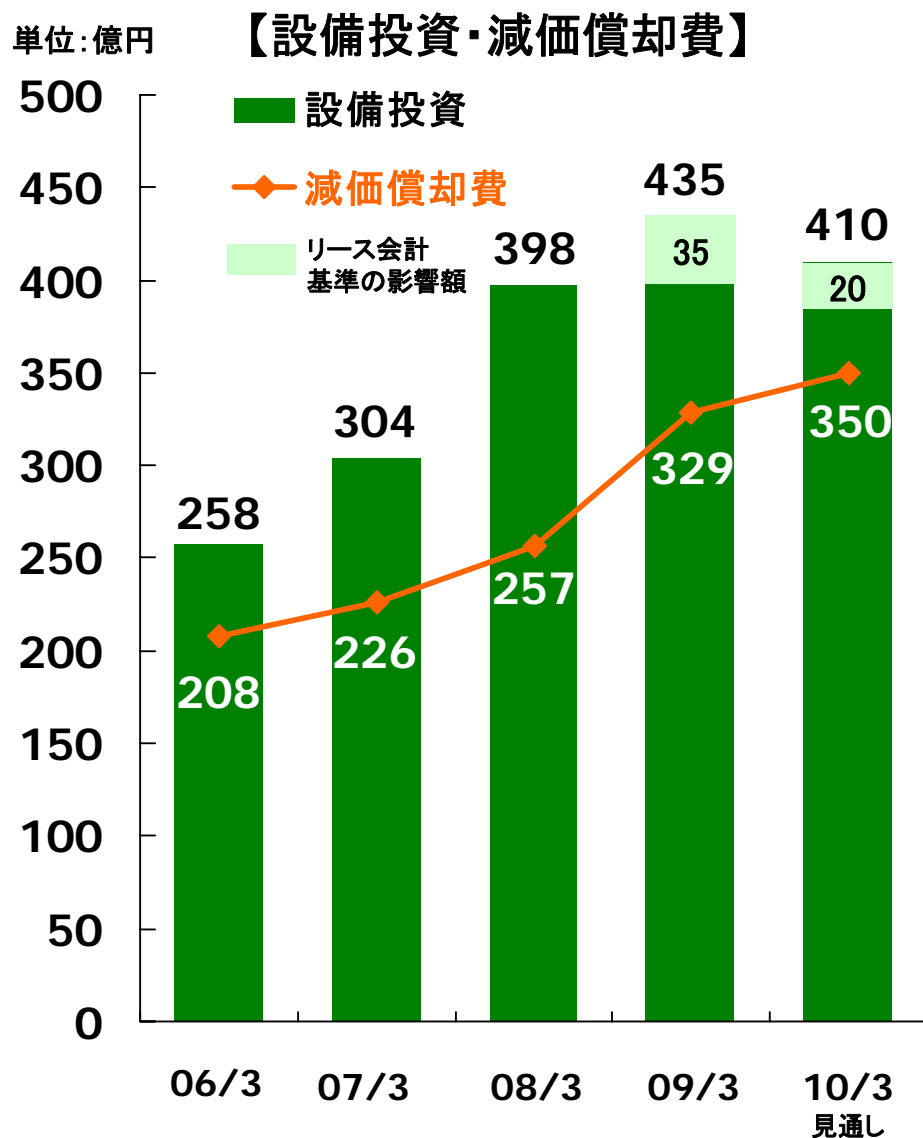


	09年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/13)	上期 下期	10年3月期 見通し	上期 下期
売上高	187億円	$\frac{96}{91}$	150億円	$\frac{110}{40}$	170億円	$\frac{80}{90}$
営業利益 売上高比	29億円 15.5%	$\frac{15}{14}$	▲10億円 -%	$\frac{▲10}{0}$	▲20億円 -%	$\frac{▲10}{▲10}$

単位: 億円



ガラス事業の液晶フォトマスク
基板は堅調

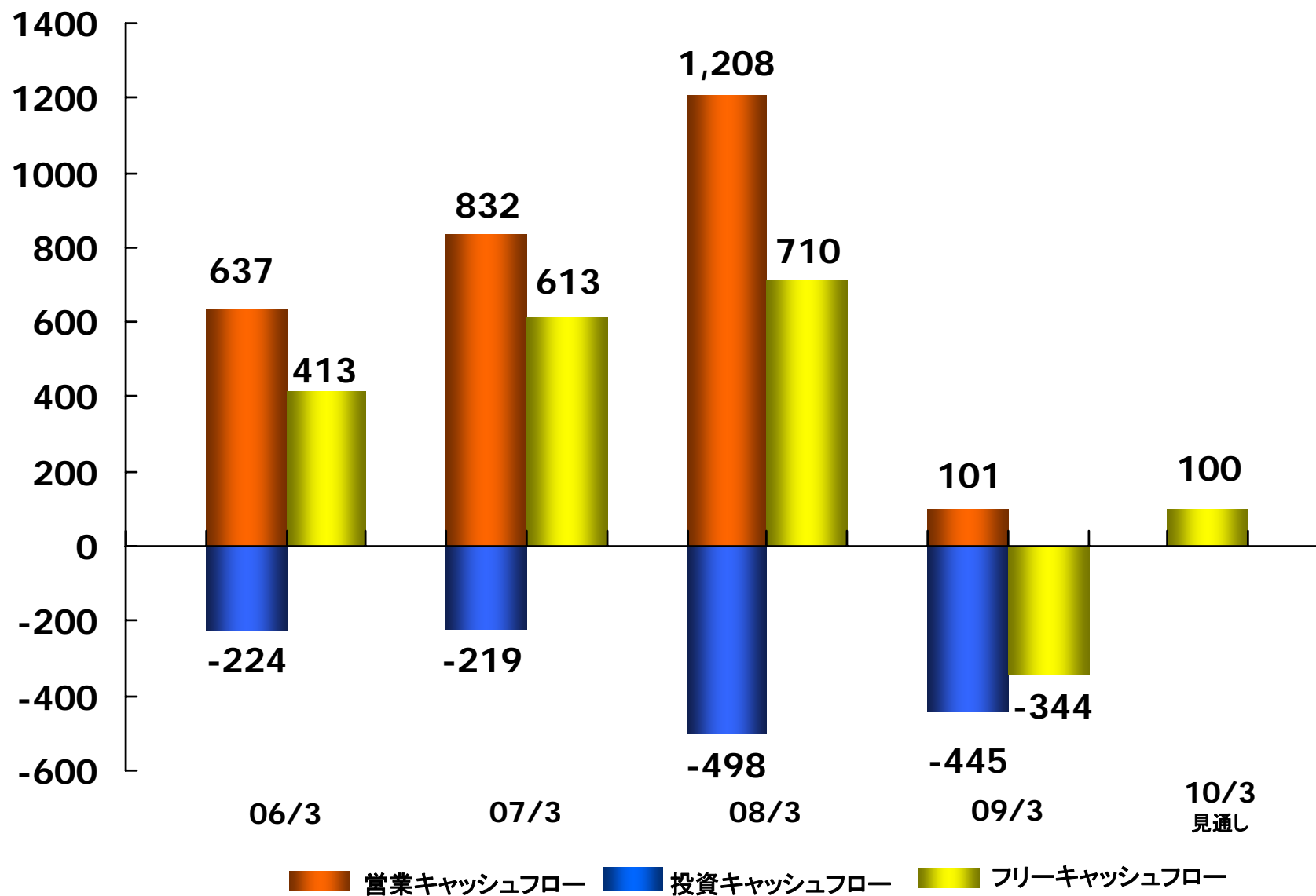


注)09/3以降には、リース会計基準の変更に伴うリース資産の取得額を含む。
09/3は設備投資35億円、減価償却費30億円。10/3は設備投資20億円、減価償却費30億円。

2010年3月期見通し キャッシュフロー

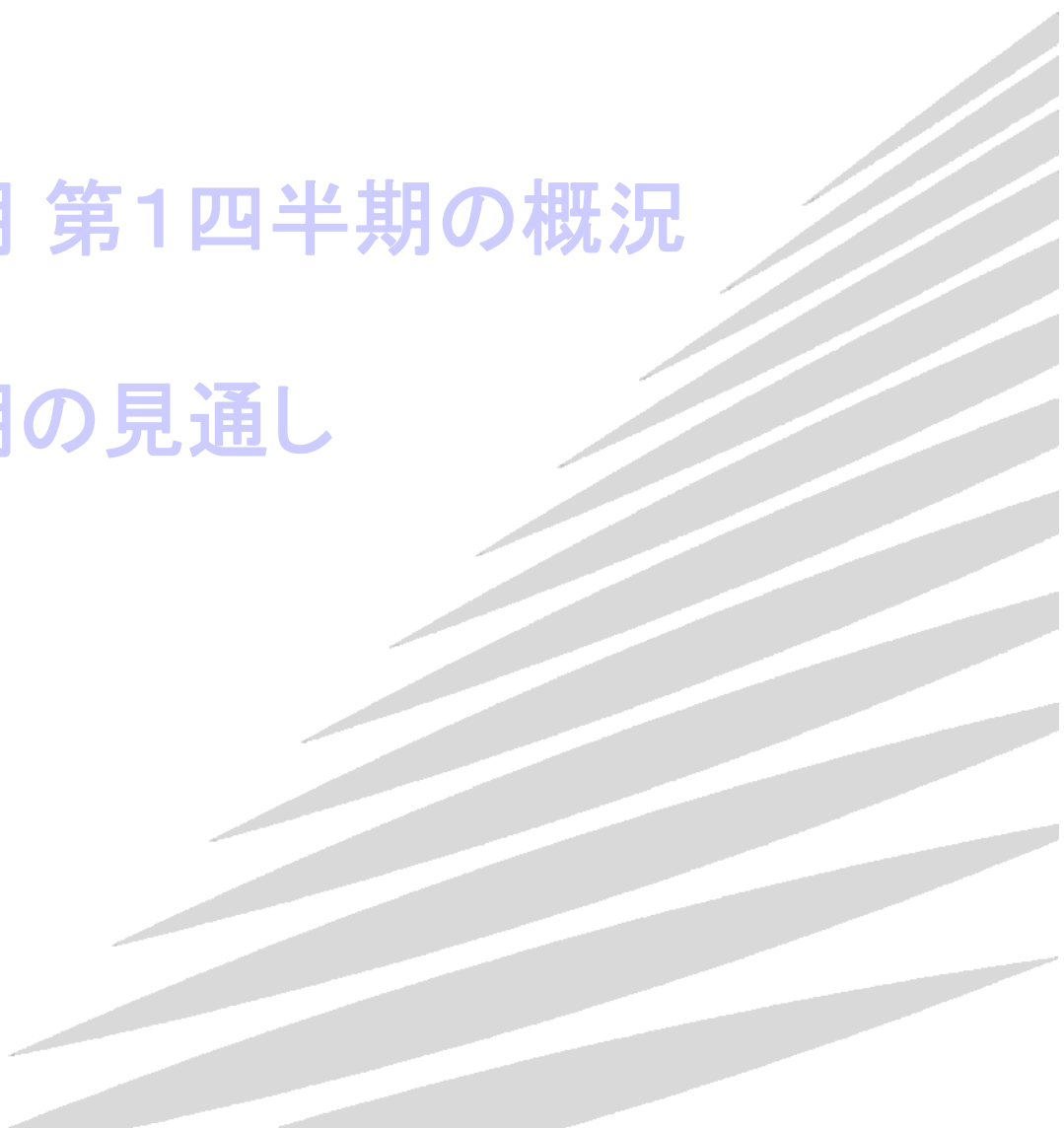


単位: 億円



- ◆ 事業環境は引続き厳しいが、今期は構造改革と棚卸の見直しを徹底し、来期の黒字化に繋げる
- ◆ 一方で、景気回復局面での素早い立ち上げに備えるとともに、今後の成長に繋がる下記施策を遅滞なく実施
 - ・ ArF液浸露光装置NSR-S620や、次世代一眼カメラなど、お客様の「期待を超える」新製品の開発に注力
 - ・ 非接触測定機、液晶フォトマスク基板、エンコーダなど新事業を推進

Agenda

- I. 2010年3月期 第1四半期の概況
 - II. 2010年3月期の見通し
 - III. 参考データ
- 
- A decorative graphic consisting of several parallel, diagonal lines of varying lengths, creating a sense of movement and depth. The lines are light gray and extend from the bottom right towards the top right of the slide.

2010年3月期 見通し

	為替レート	1円の変動による影響額	
	10年3月期 2Q～4Q前提	売上高 2Q～4Q前提	営業利益 2Q～4Q前提
USDドル	95 円	約 19 億円	約 9 億円
ユーロ	125 円	約 8 億円	約 6 億円

参考データ 2010年3月期業績見通し

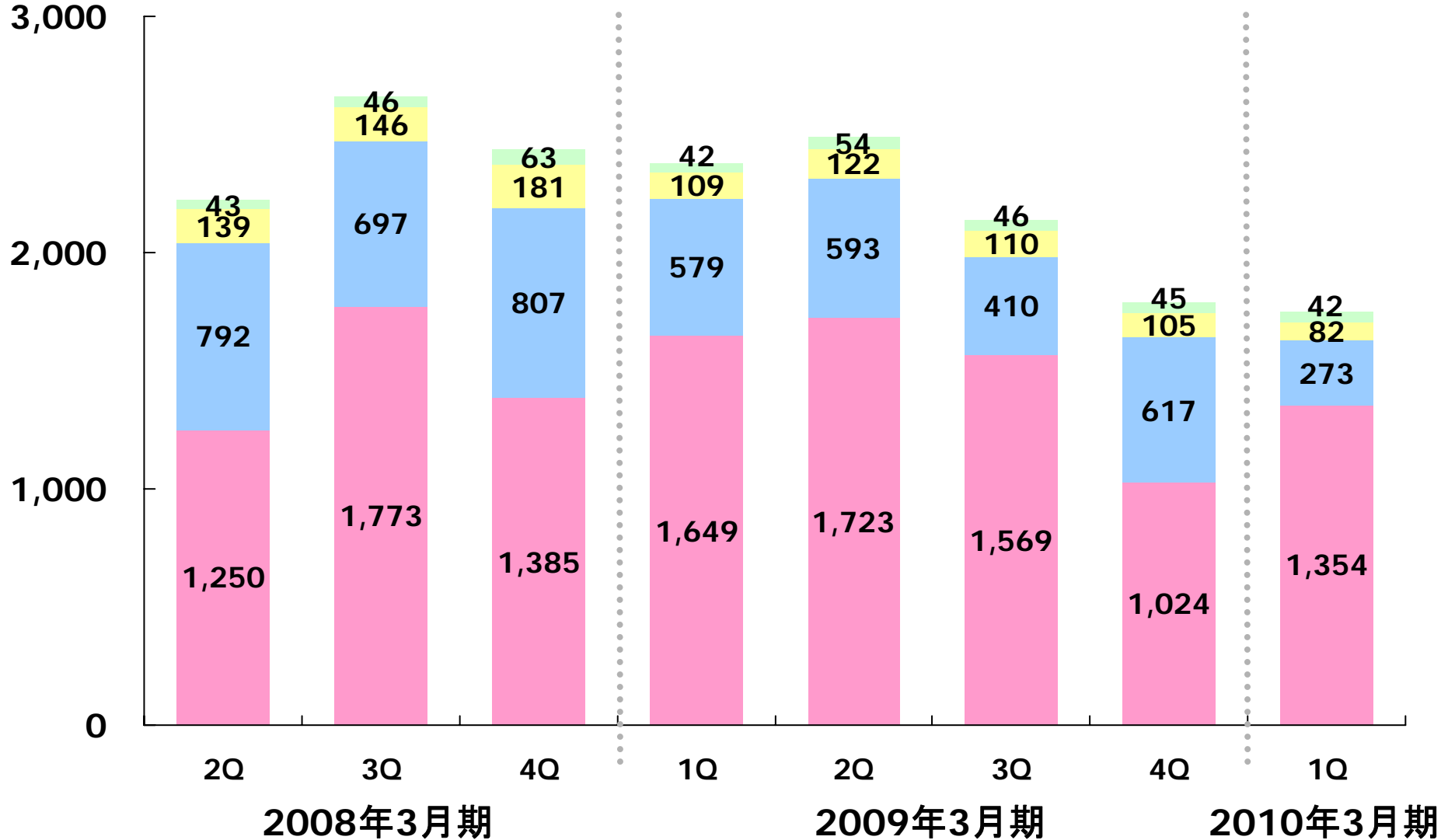


単位：億円		09年3月期 実績		前回予想 (5/13)		10年3月期 見通し	
営業利益	上期	482	541	▲120	▲140	▲300	▲320
	下期		▲59		20		20
営業外収益		80		100		100	
営業外費用		85		140		160	
経常利益	上期	477	531	▲160	▲160	▲360	▲360
	下期		▲54		0		0
特別損益		▲85		▲60		▲60	
法人税等		111		▲50		▲140	
当期純利益	上期	281	336	▲170	▲150	▲280	▲290
	下期		▲55		▲20		10

参考データ 四半期セグメント別売上高推移



単位: 億円
3,000



映像カンパニー
 精機カンパニー
 インストルメンツカンパニー
 その他の事業

参考データ 四半期セグメント別営業利益推移



単位:億円

